



# 九条の会. ひがしなだ ニュース

第 65 号

2015 年 6 月

事務局 西谷利文 Tel 080-1485-5603 E-mail [nishi-t@hm.h555.net](mailto:nishi-t@hm.h555.net)



私のひとこと

## 和子の和は平和の和

山本和子

「和子の和は、昭和の和ではなくて、平和の和です」。子どもたちに自己紹介する時の、いつもの言葉でした。

小学校入学以来、同級生にいつも複数いた“和子さん”。「なぜこんな、ありふれた名前を？」と、母に問うた時、それが平和への願いが込められたものだと知りました。

次の疑問は「なんで平和を願いながら、戦争に反対しなかったの？」「父さんは大学まで出ながら、天皇が神だなんて信じていたはず、ないでしょう？」

「偉そうなこと言っても、父さんは戦争に反対しなかったのでしょうか？」。生意気な私は、父をよく責めました。

「気づかないうちに、戦争は準備されていたんだよ」と、静かに応えた父の口調を覚えています。

今、父が生きていたら、どう行動するだろう？

「知らぬ間」ではなく、国民の目の前で「平和」の名を騙りながら、堂々と戦争準備されている、とんでもない時に。きっと「二度と騙されない」と、私たちと肩を並べて歩いてくれるでしょう。

戦争する国には、絶対させません。

(住吉地域九条の会世話人)



シリーズ 私の戦争体験 (その10)

## 南方の海に消えた男たち ～「救助できなかった思い」、今も～

語り部 : 加藤太郎さん

5月6日、東灘区民センター第一会議室において、5年目を迎えた九条の会.ひがしなだの「シリーズ 私の戦争体験 (その10)」が開かれ、渦森台在住の加藤太郎さんに自らの戦争体験を語っていただきました。



加藤さんは18歳の頃、徴用で横須賀の海軍工廠で軍艦の大砲などの修理作業に従事していましたが、南太平洋のナウル島での砲台建設に“出張”。その帰途、船団が八丈島沖を航行中、僚船が魚雷攻撃を受け、懸命の救助をするも助けられず、多くの仲間を亡くしたことなどを語られました。



5月8日付け読売新聞の報道記事

戦後、生活が何とか落ち着いてきた頃になって、わけもわからない恐怖に襲われ、居ても立ってもいられぬ発作が起き、夜中に飛び起きるようなことが、何度もありました。その原因は戦争中に体験したこと、特に「仲間を見捨てた」という負い目が、自分を責めていたとわかり、戦争は何があっても絶対にやってはいけない！という思いを強くしていると、熱っぽく語られました。(西谷)

## 横浜で3万人余の憲法大集会 共同の実行委員会が大きな力に

5月3日、横浜の臨港パークで3万人余を集めた大規模な「憲法集会」が開かれました。例年、東京都内でそれぞれ憲法集会に取り組んできたグループが共同で実行委員会をつくり、都内では、これだけの大規模な会場が確保できないために、横浜での開催となったそうです。

会場で販売されていたパレスチナの地ビールを飲みながら、関東の友人たちと芝生に座り込んで話を聞きました。さながら野外フェスのようです。

普段は温厚で、人を呼び捨てにしないという大江健三郎さんが、「安倍は嘘つきだ」と厳しく批判。民主党、共産党、社民党、生活の党から代表の方が挨拶されたほか、会場では新社会党、緑の党の方も見かけました。もちろん無党派の方が、たくさん参加されていたと思います。

それにしても翌日、東京新聞や「しんぶん赤旗」は、1面でこの集会を取り上げたのに対し、読売・日経・産経は一言もなし。

「自分たちの力で伝える」ことの重要性を痛感します。

(KEN-NYE)



共同の力で3万人余も (撮影=KEN-NYE)



### 本の紹介

## 「慰安婦問題をこれで終わらせる。」

異色の新刊、「良識と国益」ふまえて

今年は戦後70年、また日韓基本条約50年でもある節目の年。

「慰安婦問題をこれで終わらせる。～理想と、妥協する責任、その隘路から」と題する異色の本が4月22日、出版されました。

著者の松竹伸幸さんは、かもがわ出版(京都)の編集長ですが、本を出したのは小学館。定価は1,500円プラス税。「良識と国益の具体案、この一冊」は、①朝日新聞の本当の「罪」とは②政府声明「河野談話」とは何だったのか③植民地支配と和解について国際標準から④妥協と原理の政治について、の4章で構成されています。

ウンザリするほどゴジれ切った「慰安婦問題」の解決に向けて、「双方にいる良識派」「対立軸は固定的でも絶対的でもない」という視点が、従来にはない、柔軟姿勢の論調を生み出しています。

書物は前から読むのが普通でしょうが、この本は「おわりに」から読むのがお薦め。著者の経歴にもふれて、「なぜ左翼の側から解決提案するのか」「その叩き台に」という執筆動機が鮮明に出ています。

## 「平和」のラベル

吉田 維一

「安全保障法制」と呼んでいた法律が、国会提出の直前に、『平和』安全法制に名前を変えた。中身は変わっていないのに……。店頭と並べる前夜、中身はそのままなのに、フツウの「牛乳」や「たまご」のラベルを、「めっちゃしぼりたて牛乳」「めっちゃ産みたて卵」のラベルに貼り替えた商品。そのような商品を買いに、お店に行く人はいるだろうか？

役者全員が若手弁護士という、巷でウワサの「劇団あすわか」の寸劇「せんそうがおきるまで」には、「超平和！世界の平和を守る法案」という名前の「戦争遂行法」が登場する。冗談半分で「平和」を殊更に強調した劇中の法律と同じく、「平和」を強調する名前へ、土壇場で変えられた法案は、わずか10分で閣議決定されたという。直前に名前を変え、国会へ送る体裁の悪さ。閣議に臨んだ閣僚の気まずさはいかばかりかと気の毒に思う。

直前に名前を変えないと勝負できない商品が、ずらりと店頭と並んだ。平和な「商品」だと、間違っって買う人が出ないように、「他国軍の戦費を減らすため、自衛隊員の生命を危険にさらす法案」というラベルを貼っていきたい。

(兵庫県弁護士会 憲法問題委員会委員長)

### 九条の会訪問記（その40） 甲陽園9条の会

#### 目立つ女性の頑張り 会報は各戸配布で粘り強く

西宮市でも桜の名所として知られる夙川沿いに、上流から甲陽園、北夙川、夙川と、3つの九条の会があります。共通しているのは「女性の頑張り」。そして、横の連携を大事にし、折にふれ、3者共同でも学習会を開催していること。

そうした3つの会の共同企画「阪神・淡路大震災、東日本大震災から教わるもの」が3月28日（土）、西宮市の越木岩公民館で行われました。このテーマの“言い出しっぺ”は、甲陽園9条の会。大震災のボランティア活動に熱心な山川泰宏さん（神戸・市民交流会事務局長）が、引っ張っています。

甲陽園9条の会の発足講演会は2004年10月30日。3つの会では歴史が最も古く、テーマは「年金改悪と戦争への道」。「9条（平和）が危ない時、25条（福祉）もまた、危機的状況にあります」という呼びかけは、10年以上経った今、輝きを増すばかりです。毎回、2,500枚以上のニュースを、各戸配布し続ける行動力と粘り強さもまた、特筆ものといえるでしょう。



3者共同企画は、震災犠牲者への黙祷から

# 中国問題で学習会 神戸大教職員九条の会 6月4日(木) 18:30～ 学生青年センターで 講師からのメッセージ (太田和宏・神戸大准教授)

近年、南シナ海の領土領域所有をめぐって中国と東南アジア諸国の緊張が高まっています。特に南沙諸島(スプラットリー諸島)では、中国、台湾、フィリピン、ベトナム、マレーシア、ブルネイがその領有と利用を主張し問題が複雑化しています。東南アジア諸国ではこうした一連の南シナ海領土・海域問題の背景にある中国の積極的な海洋進出に警戒心を一層強めています。軍事施設建設や軍事的衝突は、東・東南アジア地域の安全保障全般にも影響を与える要因となっています。

一方で「東南アジア諸国連合」アセアンは今年2015年には「アセアン共同体」を発足させ、地域連携をより一層強化しようとしています。その際に、大国中国との友好的連携も重要な要素と考えています。「アセアン中国自由貿易協定」AC-FTAなどはその表れです。

こうした緊張と連携の混在する実態を、東南アジアで最も親米的といわれるフィリピンと中国との関係を中心にみながら、今後の東アジア・東南アジアの状況について考えてみたいと思います。



## 催し物案内

<p>憲法学習講演会 <b>憲法9条を壊す「戦争立法」</b> ～私たちの暮らしはどう変わる?～ 日時：6月14日(日) 14:00～ 会場：東灘区民センター第1、2会議室 講師：吉田維一さん(弁護士：兵庫県弁護士会) 主催：九条の会、ひがしなだ ☎090-7366-9420 (中村)</p>	<p>憲法を学ぶつどい <b>自衛隊が戦う日～安倍“壊憲”と闘う～</b> 日時：6月20日(土) 13:00 開場、13:30 開演 会場：西宮市立勤労会館第8会議室 (JR西宮駅南へ徒歩5分) 講師：長岡 徹さん(関西学院大学法学部教授) 主催：「九条の会」西宮ネットワーク (☎0798-26-0537)</p>
---	---



・9周年記念講演の内田樹・神戸女学院大名誉教授宅を訪ね、顧問就任をあらためて要請したところ、アツサリOK。しかも「人を紹介することくらいは出来ますよ」と、暖かい励ましも。心強い限りですね。

・憲法記念日に、凶弾に倒れた朝日新聞記者を悼む5・3集会のテーマは「言論・表現の自由を活かそう」。右翼の宣伝カーも来る中、自由は「闘ってこそ得られる」という名言の重みをかみしめつつ。

・深草徹・代表世話人(弁護士)が5月15日、芦屋で講演。旧陸軍の標語を逆手に、「たたかいは創造の父、文化の母である」と呼びかけ。

・今月も盛りだくさんの原稿をいただきながら、全部は載せきれませんでした。次回以降で。

編集後記